

2023 年 5月 18日

2022 年度自己評価委員会会議

出席者

村本 英之(学校長・欠席)
憶 和男(副校長, 学生支援課デビューサポートセクション・欠席)
木村 健人(企画広報課, 教務課音楽芸能スタッフ科) : 議長
稲吉 諒冴(教務課音楽アーティスト科)
本田 裕紀(学生支援課キャリアサポートセクション)
明永 龍騎(総務課, 事務局, 教務課声優芸能科) : 議事録

日時

2023 年 5 月 8 日 9:30~12:00 8F 会議室 にて

議題

1. 評価10項目の点検評価及び、具体的な状況、課題、改善策

※ 参考資料：学生授業評価(2023年2月実施済)

2. 2022年度重点目標の達成及び取り組み状況

3. 2023年度の重点目標策定

◇評価項目◇

1. 理念・目的・育成人材像
2. 学校運営
3. 教育活動
4. 学修成果
5. 学生支援
6. 教育環境
7. 学生の募集と受入れ
8. 財務
9. 法令等の遵守
10. 社会貢献・地域貢献

1. 理念・目的・育成人材像

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
1-1	理念・目的・育成人材像は定められているか	4
1-2	育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
1-3	理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4
1-4	社会のニーズ等を踏まえた将来構造を抱いているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<p>・教育理念、目的、育成人材像を定め、パンフレット、ホームページ等に明記することで、誰でも閲覧可能な状態としている。</p> <p>・関連企業から求められる人材、求められる知識技術を十分にヒアリングし、現代社会のニーズに合った目的と育成人材像を設定している。また、それらを学科毎に詳細に設定したことで、より専門分野に特化した内容となっている。同じ音楽芸能分野でありながら学科毎に適性の異なる職種を目指すため、この詳細設定は非常に的を射たものと自負している。</p> <p>・関連企業との連携により、業界のニーズを取り入れ、配信技術、映像編集、Vtuberに関するセミナーなど新たな取り組みを行った。移り変わりの早い音楽芸能分野の最先端技術・知識を常に取り入れ学生に提供することを一番の特色として実施している。</p> <p>・社会のニーズに対応するため、分野別実習という学科を越えた選択授業を実施し、学生自らが将来像を描ける特色あるカリキュラムを準備している。</p> <p>・コロナ禍において家で作業をする人が増えたため、音楽アーティスト科の各コースにクリエイター専攻を設置する等、社会情勢に即した対応を行っている。</p>		

2. 学校運営

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
2-5	理念・目的・育成する人物像に沿った運営方針を定めているか	4
2-6	運営方針に沿った事業計画を定めているか	4

2-7	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化し有効に機能しているか	3
2-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	2
2-9	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<ul style="list-style-type: none"> ・理念、目的、育成する人物像に沿った運営方針を職員会議によって定め、学科部署課毎に経費策定を行っている。全体像が見えたのち事業計画を定め文書化している。 ・意思決定機能については規則で明確になっていることと、現場で判断が必要なことの区分があいまいな部分があるため、改善を実施する。 ・人事給与制度について改善を実施する予定であったが、導入する動きはあったものの効果的な運用にまでは至っておらず、目に見える形での評価ができるよう特に努めていく。 ・イントラネットを利用したネットワークシステムを構築し、県外の姉妹校を含め連絡事項やスケジュールの共有といった社内連絡をスムーズに行うことができている。 ・入学希望者の個人情報から学生情報である成績出席の管理を各種アプリケーションに集約し、効率化が図られている。 ・社内通信環境のインフラについては適宜見直しを行い、より安定した環境の整備に努めている。 ・学内ではGoogleアプリの「Classroom」を積極的に活用し、授業に関する情報を中心に、学生生活や就職、デビューに関する情報発信を行なっている。 ・学校運営に必要な部署課として事務局、教務課、広報課、学生支援課等の組織を整備し、それぞれの役割を基に業務遂行にあたっている。 ・部署課毎に運営会議を毎週開催し、教具等の上申やイベント立案等の計画プレゼンテーションを経てそれぞれの会議内で意思決定している。 		

3. 教育活動

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価
3-10 教育理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4
3-11 学科毎に修業年限に対応した教育達成レベルを明確にしているか	4
3-12 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4
3-13 教育課程について外部の意見を反映しているか	4
3-14 キャリア教育を実施しているか	4
3-15 授業評価を実施しているか	4
3-16 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4

3-17	作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	4
3-18	資格取得に関しての方針は教育課程で明確に位置づけているか	4
3-19	資格取得の指導体制はあるか	4
3-20	資格要件を備えた教員を確保しているか	4
3-21	教員の資質向上への取組を行なっているか	3
3-22	教員の組織体制を整備しているか	3
具体的な状況、課題、改善策等		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科毎にディプロマ・ポリシーと教育目標を定め、それに基づきカリキュラムを策定している。 ・ 成績評価と修了認定基準を明確化し年度初めのガイダンスで学生に説明の上、データ共有し各基準に沿った運営をしてきた。 ・ 昨年度の課題であった講師と職員での情報の共有を強化することで、業界のニーズ、社会情勢を反映した教育課程の編成を柔軟に行うことができた。教育水準をさらに上げられるよう引き続き努力していく。 ・ 学校評価委員会を毎年実施。それ以外でもインターンシップやオーディションなどで業界とのつながりを強化し、職員が教育界と業界をつなぐ努力を続けている。 ・ 授業評価について、学生へのアンケートを学科ごとに年2回程実施。学生のストレートな意見を収集し、講師へのフィードバック後、講師への指導やカリキュラムの改善を行った。 ・ GPA制度を採用し学校全体で成績評価基準を定め適切に運用してきた。 ・ 年間授業計画において知識技術のインプットとアウトプットが、綿密に練られたバランスで実行できている。期間毎に蓄積された知識技術の発表会を開催。教職員や保護者が学生の成長を確認できる環境を作っている。 ・ 資格取得の対策授業を実施し全コースの学生に平等に機会を与えている。 ・ 教員の資質向上に関して、外部講師による学生向けのセミナーに講師の参加を促す他、コース内の他のベテラン教員との連携を深める時間をつくり、指導のノウハウを共有するなどの取り組みを行った。 ・ 昨年の検討事項であった、外部講師による教員への直接的な指導の機会はいまだ設けられていない。教員の理解を得つつ、試験的に導入していく。 ・ 新任教員や教員の担当授業の変更があった際の他教員への告知を徹底する等し、教員間連携をさらに高めていきたい。 		

4. 学修成果

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価
4-23 就職率の向上が図られているか	4
4-24 資格取得率の向上が図られているか	4

4-25	卒業生の社会的評価を把握しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の求人数は385件、就職率は89%と高い水準をキープしている。 ・キャリアサポートセクションという専門部署からのGoogleクラスルームを利用して、全学生へ求人案内を実施している。 ・校内には無線LANを整備し学生全員にタブレットを配布している。espドメインの個別メールアドレスを付与し就職活動で使用することができる。 ・就職希望者全員に、就職に関する準備、スケジュール、注意事項等の詳細をまとめたオリジナルのキャリアガイドブック手帳を配布している。 ・1年次の11月に就職に関するキックオフガイダンスを行い、就職に対する意識付けを行っている。音楽芸能スタッフ科だけでなく、就職を検討している学生は学科を問わず全員参加可能。 ・卒業生の就職先の企業や所属先のプロダクションと連携をとり、卒業生の活躍情報をいただいている。また卒業生に対しても就職情報やオーディション情報を在学生同様に共有している。 		

5. 学生支援

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価
5-26 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
5-27 退学率の低減が図られているか	4
5-28 学生相談に関する体制を整備しているか	3
5-29 留学生に対する相談体制を整備しているか	4
5-30 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
5-31 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
5-32 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	4

5-33	課外活動に対する支援体制を整備しているか	4
5-34	保護者との連携体制を構築しているか	4
5-35	卒業生への支援体制を整備しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<p>・就職支援のキャリアサポートセクションと、デビュー支援のデビューサポートセクションにより、地域の情報収集はもちろん、東京、大阪に設置する姉妹校の求人情報、オーディション情報の共有を積極的に行い学生に向けてチャンスの拡大を図っている。</p> <p>・学生からの学業に関すること以外、具体的には自身の精神的・身体的不調に関するもの、いわゆる対応に専門的な知識・経験が必要なことにまつわる相談が増えてきた。今後は学校医との連携を強化し、専門家による相談体制を整備していく。</p> <p>・悩みを抱えている学生の早期発見・対応に努めるため、学生への定期的なストレスチェックを実施する予定である。</p> <p>・定期的に学生との個別面談を開催し、学生と教職員間で概ね良好な関係を築くことができている。学生から受けた守秘以外の退学等に関する相談事項は、教職員間で共有し改善に向けての対策を検討する体制がある。</p> <p>・留学生に向けた学校独自の奨学金制度を整備している。</p> <p>・学生には奨学金制度や修学支援制度などを説明するガイダンスを随時開催している。</p> <p>・年度始に全学生を対象とした健康診断を実施している。</p> <p>・遠隔地から就学する学生に向けては、学生寮、学生マンション運営企業と業務提携して居住情報の提供に努めている。</p> <p>・学生の外部イベント実習やライブ活動、ボランティア活動については、公欠願を提出すれば出席扱となる制度を整えている。</p> <p>・保護者、卒業生には教務課を通じていつでも相談できる体制を整えている。また保護者には年間2回成績通知書を送付し、成績・出席率を共有している。</p>		

6. 教育環境

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
6-36	教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
6-37	学内外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4
6-38	防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
6-39	学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		

- ・実習授業で使用する機材に関しては同業界において、定番から最先端のものまで幅広く設置し考えられる中で最適な環境を提供できている。
- ・イベントのスタッフ研修参加を中心としたインターンシップ制度を実施している。学生の大きな現場経験になるだけでなく、貴重な職業見学の場となっている。
- ・今年度、外部イベント研修は学生対象で9回の実施があり、音楽芸能スタッフ科の学生総勢62名が参加した。昨年度の5回より大きく上回る実施回数となった。
- ・例年海外に設置している姉妹校への研修旅行を実施していたが、学生の健康的な安全面を考慮し昨年度に引き続き今年度も中止とした。来年度は社会情勢を注視しながら再開していく予定である。
- ・安全管理に関する制度を定め、ファイル「安全管理等資料・防火管理等資料」としてまとめ職員全員が閲覧できるようにしている。
- ・火災防災組織を整備し年2回の避難訓練を実施、学生に向けた避難経路の確認と防火防災に対する意識付けを行っている。
- ・危機管理委員会を設置し、事故・災害発生時の指示系統を明確に定めている。
- ・全学生を対象とした学生災害傷害保険、学校としては学校賠償責任保険に加入している。また、インターンシップ賠償責任保険等必要に応じた保険に適切に加入している。
- ・校舎内は可能な限り段差をなくし、点字ブロック、バリアフリートイレ、エレベーター等を設置している。定期的に学内の点検を実施し、安心安全な学校を維持している。
- ・図書室に関して学生の要望に基づき冊数を増やしていくことで、興味に基づいた専門分野の学習支援を行っている。

7. 学生の募集と受入れ

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
7-40	高等学校等接続する教育機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4
7-41	学生募集活動を適切かつ効果的に行っているか	4
7-42	入学選考基準を明確化し適切に運用しているか	3
7-43	入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4
7-44	経費内容に対し学納金を算定しているか	4
7-45	入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		

- ・高等学校等の進路説明会へ参加し教育活動等の情報提供を定期的に行っている。
- ・学生募集活動の重要な位置付けとなるオープンキャンパス開催に関して、開催回数の効果的な設定、体験授業の内容を充実させること、学校説明会の内容を充実させることを常に議論してきた。学校説明会・オープンキャンパスをオンラインで開催するなど、様々な方法で学生との接触の機会を増やしている。
- ・オープンキャンパス開催時には必ず来校者アンケートを実施、オンラインにおいても、オンラインアンケートを実施し、次回開催に向けてアンケートの内容から問題点があれば検証し改善を行ってきた。
- ・入学選考に際し、入学した後のミスマッチを防ぐためにも、作文や面接を通して入学生の志向性を確認する精度を高められるよう努めていく。
- ・社会のニーズに合わせて、募集状況を鑑み専攻や授業内容の変更を行っている。
- ・出願後の入学辞退者への授業料返還に関して、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。
- ・入学に関しての選考基準を明確に定め、学校案内送付の際に同封する「募集要項」にて明文化している。募集要項に沿った運用を年間通して行ってきた。
- ・学生募集活動の主要ツールとなる学校案内、募集要項等を作成し、学科毎の教育活動、学習成果等について明確に紹介している。また、ホームページでは学校案内以上の詳細内容を紹介し、あわせてSNSを積極的に活用することで学校生活におけるタイムリーな情報を発信してきた。

8. 財務

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目	点検評価
8-45 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4
8-46 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4
8-47 教育目標の整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
8-48 予算及び計画に基づき適切に執行管理を行っているか	4
8-49 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4
8-50 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し適切に運用しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等	
<ul style="list-style-type: none"> ・自己資金で設備投資を行うなど、過去3年間の財務基盤は安定している。 ・キャッシュフロー計算書、学校基本調査表の作成を行っている。今後財務分析を行うことを検討する。 ・事業計画の予算に対して、決算では多少の乖離はある。予算執行にあたっては上申書、立案書などを理事長が最終承認を行う体制を執っている。 ・5月に行われる理事会において事業報告を行っており、その際に監事による会計監査を実施している。 ・財務情報を当学園ホームページに公開を行っている。 	

9. 法令等の遵守

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
9-51	法令や専修学校設置基準等を遵守し適正な学校運営を行っているか	4
9-52	学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を実施しているか	4
9-53	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
9-54	自己評価結果を公表しているか	4
9-55	学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4
9-56	学校関係者評価結果を公表しているか	4
9-57	教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		
<ul style="list-style-type: none">・法令、専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っている。・自己評価実施に関して学則に記載し専修学校の義務であることから、開校初年度より実施し公表している。・毎年学生アンケートを実施し、カリキュラムの構築や講師の指導等に役立てている。・学校関係者評価は「学校関係者評価報告書」としてホームページに掲載し、広く社会に公表している。		

10. 社会貢献・地域貢献

◇自己採点◇ 適切：4 ほぼ適切：3 やや不適切：2 不適切：1

点検項目		点検評価
10-58	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
10-59	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
10-60	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
具体的な状況、課題、改善策等		

・市などが開催する音楽イベント等、コロナ禍で中止となっていた行事が徐々に再開されてきたことに伴い、過去積極的に参加してきたイベントに改めて参加できるようになった。また、県内高校の軽音楽部活動支援として校内ライブホールの使用提供、学生スタッフの協力等により、エンタテインメント業界を目指す高校生への支援企画等の開催を計画し、実施予定である。

- ・地域貢献のためのチャリティーライブや公開セミナーを開催。一般の方から広く参加者を募った。
- ・学内に募金箱を設置し、社会貢献の一環として子ども保護NPO法人等ふたつの団体に寄付をしている。また、募金活動により学生に対して社会貢献の意識付けを行っている。
- ・ボランティア活動が授業と重なる活動開催日となった場合は、公欠として認め学生が参加し易い状況となっている。
- ・コロナ禍で中止となっていた、高校からの要請により教育訓練としての楽器実技等レッスンを往訪・来訪にて再開。当校の持つノウハウを高校生に提供している。

<自己評価実施概要>

- ・在校生アンケートの実施(2023年2月)
 - ・自己評価委員会において2022年度自己点検を行う。(2023年5月)
 - ・2022年度の学園規則やカリキュラム修正等の反映について確認。(2023年5月)
 - ・2022年度自己評価を取りまとめ内容確認及び承認を行う。(2023年5~6月)
-

1. 学校の教育理念

◇建学の精神

音楽・楽器を創造することを通じて豊かな人格を形成し、さらに自己の可能性を追求する人材の育成。

◇教育の理念

建学の精神に基づき、エンタテインメントに関する高度かつ最新の知識や技術を修得し、感動を創造できる人材の育成に力を注ぐ。

2. 学校の教育目標

「卒業の認定に関する方針」の【教育目標に定める人材育成】から、以下抜粋事項を学科毎の教育目標と定める。

◇音楽アーティスト科、音楽アーティスト科Ⅱ部

一、理論や類例を通じて得る知識量と反復実践において獲得するテクニックを包括し、エンタテイナーとして即戦力となりうる高度な技術力の習得

一、ワークショップや討議などを通じてエンタテイナーとしての美学や哲学など多様な感性を磨き、ステージにおけるケーススタディーを通じて観衆を魅了しうるパフォーマンス力の習得

一、専門分野における基礎課程を土台とした作品制作における技術や知識の組み合わせ、及び実験を試みながら新時代に対応しうる創造性やクリエイティビティーの習得

◇声優芸能科

一、声優、俳優の土台となる、発声法、発音法、呼吸法を基に美しい響きを持った正しい日本語で正しい情報を伝達することができる専門的知識と技術の習得

一、多くの戯曲と作品に触れ、創作を通して、脚本や創作意図を理解し解釈する力、自ら思考し役柄の個性を表現する力、他者に伝えるための演劇的な説得力の習得

一、様々なメディアに対応するための、歌唱、アフレコ、ダンス、殺陣、ナレーション等、それぞれの専門分野における基礎技術と応用技術の習得

◇音楽芸能スタッフ科、音楽芸能スタッフ科Ⅱ部

一、授業内で使用した様々な機器の名称、役割、正しい接続方法、基本的な操作技術の習得

一、授業内のグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッション等で学んだ音楽スタッフそれぞれの役割と演者との関係性を理解し、実践的なイベントにおいて活かすことのできるコミュニケーション能力の習得

一、様々な環境や条件を想定した授業を受講した結果として、いかなる場面においても音楽スタッフとして、それぞれの役割の上で臨機応変に対応できる能力の習得

3. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 「現場主義」に即した外部研修参加体制の強化
- 進級率・卒業率を向上させるための施策の強化
- 円滑な学校運営を支えるための継続的な学校広報の強化
- 進級率 90 パーセント以上
- 年間平均出席率 85 パーセント以上

4. 評価項目の達成及び取組状況

- 「現場主義」に即した外部研修参加体制の強化

コロナ禍の時に比べて、参加できるイベントが大幅に増え、参加率も大きくアップした。それに伴い、研修の規模によっては引率の職員・教員数を増やすなど、支援体制を強化した。

また、内部の発表会なども校内だけでなく、外部のホールやライブスタジオを使用することで、より「現場主義」に即した取り組みができた。

- 進級率・卒業率を向上させるための施策の強化

出席率が低下してきた学生に対しては保護者の方とも連携して即時対応を行っていった。また、定期的な面談を実施し、進級・卒業に関わる情報を繰り返し伝えることで、意識付けを行った。

しかしながら、上述した通り、学生からの学業に関すること以外、具体的には自身の精神的・身体的不調に関するもの、いわゆる対応に専門的な知識・経験が必要なことにまつわる相談が増えてきた背景もあり、職員だけの対応は難しい場面が見受けられた。職員・教員の知識・経験の向上に努めるとともに、今後は学校医との連携を強化し、専門家による相談体制を整備していく。

- 円滑な学校運営を支えるための継続的な学校広報の強化

コロナ禍より、高校において学生の進路決定が難しい状況が見受けられた。

2022年度の広報は高校との連携及び意見交換の場を積極的に持つ機会を増やした。

また希望者に関してはオンラインの学校説明会・オープンキャンパスを実施し、

来校への不安感を払拭できるイベントを開催しつつも、感染対策を行ったうえで通常のライブを開催するなどエンタテインメントの魅力を伝えられるイベントの開催も行った。

なお、来校者数は対2021年度で見ると増加しており引き続き上記の内容も踏まえつつ、次年度も積極的に広報活動を行っていく

■進級率 90 パーセント以上

入学者数150名→進級者数127名(進級率85.8%→84.6%)

2年生進級者数120名→卒業者110名(卒業率89.7%→91.6%) 合計87.8%→88.1%

■年間平均出席率 85 パーセント以上

音楽アーティスト科 81.7%→78.6%

声優芸能科 89.7%→88%

音楽芸能スタッフ科 88%→86%

音楽アーティスト科Ⅱ部 86.7%→87.3%

音楽芸能スタッフ科Ⅱ部 96.9%→96.0% 合計 88.6%→87.1%

5. 来年度、重点的に取り組むことが必要な目標や計画について

■職員・講師の組織体制の整備

■進級・卒業につながる学生相談の制度の強化

■卒業後の進路先としての外部企業・プロダクションとの繋がり・連携の強化

■進級率 90パーセント以上

■年間平均出席率 85パーセント以上

以 上